

## (5)今後の生涯学習・社会教育事業について

### グループワーク② 地域学校協働活動について 発言要旨

#### ○地域学校協働活動推進員について

##### 安藤委員

- ・ 学校と地域がともに、協働本部（協働活動を推進する人と実際に活動している人）と、学校運営協議会の構造の理解をすることで、より連携が深まるのではないかと。

##### 安藤委員

- ・ コーディネーターの役割や、ボランティアの組織化を含め、推進員がどのような業務を担うのかを整理することが必要である。
- ・ 推進員の業務について、各市町村や県で認識をそろえていくことも大切でないかと。

##### 安藤委員

##### 石沢委員

- ・ 推進員に業務のイメージをもってもらうため、具体的な活動を数パターン動画で配信し、活動のイメージをもってもらってはどうか。その上で、推進員が養成講座などの研修会に参加すると業務への理解が深まるのではないかと。

##### 石沢委員

- ・ 推進員どうしが互いに相談できる、連絡を取り合える関係づくり、仲間づくりも大切である。

##### 事務局

- ・ 推進員には、地域のことを知っている方に担っていただくことが望ましいと考えている。教育事務所でも、養成講座等で推進員の位置付けや役割の説明、つながりづくりを実施している。

#### ○学校との連携について

##### 石沢委員

- ・ 実際、年2回の学校運営協議会では、様々なことを決めることも難しいし、地域と学校と連携して何かに取り組むことも難しい。だから、学校の授業のお手伝いをしてもらっているのが現状で、学校の新しい取組みに地域の人が入って取り組むのは難しい状況にある。地域で取り組みたいことを学校に働きかけて、どう連携するかを含め、今後、推進員がコーディネート力を発揮していくにはどうしたらよいか検討していく必要がある。

##### 安藤委員

##### 石沢委員

- ・ 自治体の中には、教員と学校運営協議会の委員が合同で会議をし、地域のしたいことと

学校がしてほしいことのすり合わせを行っているところもある。協議会の委員の中には、教員ともっと話をしたい方もいる。教員も、地域の方に授業でどう関わってもらえるかイメージできるのではないかと。こうしたことから学校運営協議会と教員のすり合わせする場面をつくることで、連携が進むのではないかと。

## ○今後の展望について

### 安藤委員

- ・ 推進員に地域づくりも担ってもらえるなら、「地域おこし協力隊」をお願いするのも一つの方法である。

### 安藤委員

- ・ 持続可能性を考えて、NPO や指定管理、他の職をもった職員が推進員を兼ねると、行政の謝金以外の収入も確保でき、収入の安定が図られるので、推進員も継続してもらえるのではないかと。

### 安藤委員

- ・ コミュニティ・スクールには都市型（学校を中心とした繋がりであるスクールコミュニティー）モデルと、農村型（地域振興を目的とした）モデルがある。山形県は、農村型をモデルにしている自治体が多い。自治体の規模や実情に応じて、都市型モデルのコミュニティ・スクールにしていくことも求められる。

### 教育政策課

- ・ もう一度、何のためにコミュニティ・スクールをつくるのかを考えていく必要がある。